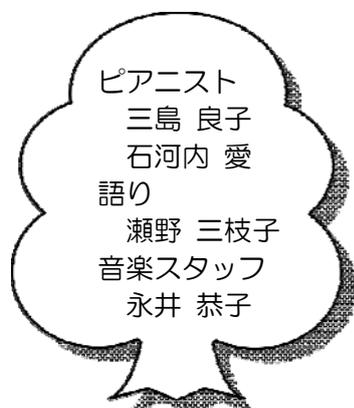
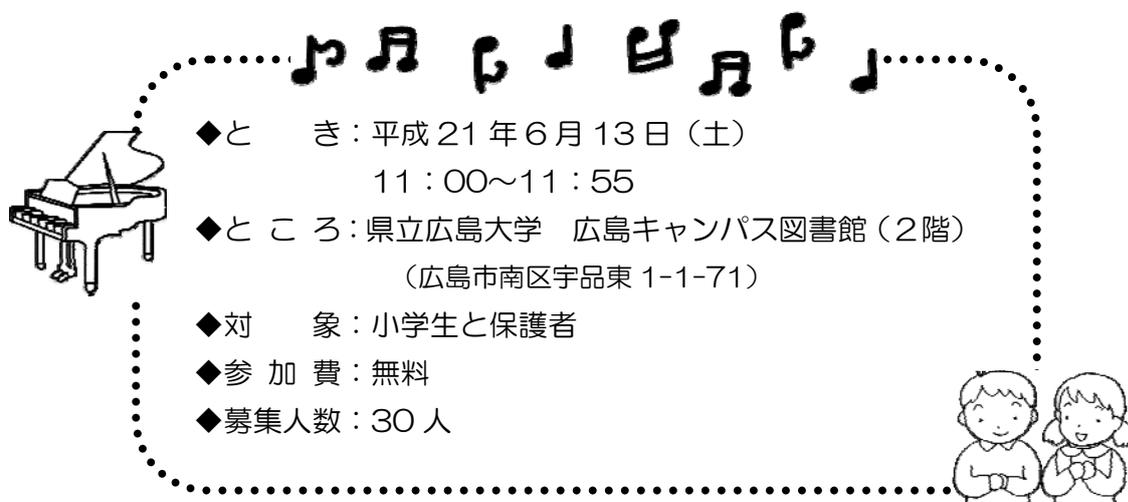


平成 21 年度県立広島大学公開講座
子どもと楽しむ 4 つの世界・パート 1



フランスの作曲家フランシス・プーランクの「ぞうのババール」と、ラヴェルの「マ・メール・ロワ」のピアノ曲に、語りを乗せてお届けします。



《申込方法》

往復はがき 1 家族につき 1 枚で、往信面の表に①郵便番号、②住所、③参加者の名前（お子さんは学年も）、④ふりがな、⑤電話番号を、返信面の表に申込者の郵便番号、住所、名前をご記入の上、5 月 29 日（金）（消印有効）までに次のところにお送りください。

〒734-8558 広島市南区宇品東 1-1-71

県立広島大学地域連携センター「ババール」係

TEL 082-251-9534

申込多数の場合は抽選とし、6 月上旬に返信はがきで結果をお知らせします。

《主催：県立広島大学地域連携センター、広島キャンパス図書館》

◆ 内 容 ◆

音楽物語「ぞうのババール」

ピアノ：三島良子

語　り：瀬野三枝子

音　楽：フランシス・プーランク「小象ババールのお話」

フランスの作曲家（1899-1963）。オペラ、バレエ音楽、協奏曲、室内楽、ピアノ曲、合唱曲など、多彩な分野の楽曲を作曲した。

「ぞうのババール」のブリュノフとは友人で、子どもたちに親しまれているこの絵本に曲をつけることを思いついた。完成は死の前年。

絵　本：ジャン・ド・ブリュノフ「ぞうのババール」

フランスの画家（1899-1938）。スイスで療養中、子どもたちに描いた絵や妻のお話がもとになって作られた。シリーズ作成の途中、38歳で亡くなったため、長男のロランが後を引き継いだ。

組曲「マ・メール・ロワ」

ピアノ：三島良子・石河内愛（連弾）

語　り：瀬野三枝子

音　楽：モーリス・ラヴェル（1875-1937）

「ボレロ」で知られるフランスの作曲家。「マ・メール・ロワ」は1908年から1910年にかけて作曲された。ピアノ連弾版、管弦楽版、バレエ版がある。ピアノ版は、①眠りの森の美女、②おやゆび小僧、③パゴダの女王レドロネット、④美女と野獣、⑤妖精の園の5曲から成る。

物　語：「マ・メール・ロワ」

「がちょうおばさんの話」17世紀末に出されたシャルル・ペロー（1628-1703）の童話集のこと。「眠りの森の美女」、「赤ずきんちゃん」、「青ひげ」、「長靴をはいた猫」、「サンドリヨン（シンデレラ）」、「おやゆび小僧」、「ロバの皮」など。ラヴェルの組曲ではペロー以外の物語も取り入れている。